

あたらしくはいった本 (令和6年1月 貸出開始資料から)

- 小説 わたしはわたしで(東山彰良/著) 墓じまいラブソディ(垣谷美雨/著) 余白の迷路(赤川次郎/著) 父がしたこと(青山文平/著) 小説ゴルフ人間図鑑(江上剛/著) 猿田彦の怨霊(高田崇史/著) ブレイク(真山仁/著) 森林通信(伊藤比呂美/著) 互換性の王子(栗井脩介/著) 人間標本(湊かなえ/著) 予幻(大沢在昌/著) 楽園(アブドゥルラザク・グルナ/著) マーリアルメイダの七つの月 上・下(シェハン・カルナティラカ/著)
- 随筆・詩などの文学 句集 眠れる山(緒方ふさ彖/著) ことばの魔法(田丸雅智/著) 東京のど真ん中で、生活保護JKだった話(五十嵐タネコ/著) BLANK PAGE(内田也哉子/著)
- その他の本 くらべて、けみして(こいしゆうか/著) 原嶋早苗のモルタルデコとワイヤー雑貨(原嶋早苗/著) シニアごはん(本多京子/著) 即効!手指ほぐし(松岡佳余子/著) 出来事と文化が同時にわかる平安時代(伊藤賀一/監修) 中村哲という希望(佐高信、高世仁/著)



東山彰良/著
『わたしはわたしで』
書肆侃侃房



こいしゆうか/著
『くらべて、けみして』
新潮社刊



原嶋早苗/著
『原嶋早苗のモルタルデコとワイヤー雑貨』
主婦と生活社

みんなの としょかん



ホームページ

市民図書館

TEL (921) 4646
FAX (921) 4896

としょかんカレンダー

令和6年	日	月	火	水	木	金	土
3							1 2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24/31	25	26	27	28	29	30

○印の日は、お休みです。
開館時間 午前10時から午後6時まで
金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

筑後国の太宰府天満宮領と菊池氏

本紙昨年10月号では、南北朝時代の天満宮留守職(天満宮の現地でのトップ)大鳥居氏と今川了俊の関係を紹介しました。続いて今回は、室町時代の大鳥居氏と、肥後国(現・熊本県)・筑後国(現・福岡県南部)の守護(国ごとの統治担当者)を務めた菊池氏との関係を紹介していきます。近年、菊池氏は肥後北部と筑後南部にまたがる守護として再評価されています。天満宮関連の中世文書からは、筑後国の天満宮領を舞台とした、菊池氏と大鳥居氏の関係をうかがうことができます。

はじめて菊池氏が筑後国の天満宮領に関与するのは、応永3(1396)年です。この時は菊池武朝が、水田荘(現・筑後市水田)・長田荘(現筑後市北長田・みやま市瀬高町長田)における違乱(秩序を乱す行為)を停止するように命じています。また、同6(1399)年にも、武朝が長田荘・忠見別符(現・八女市忠見)・吉田荘(現・八女市吉田)の違乱を停止するように命じてい



ます。当時、菊池氏は筑後国内において、新たに九州探題(室町幕府の九州統括担当者)となった渋川氏を相手に戦闘状態となりました。右に挙げた武朝の命令は、そうした混乱に対応したものと思われます。この時点で菊池氏が正式な筑後守護であったと断定できる材料はないものの、菊池氏と天満宮との関係が形成されつつあったことがうかがえます。

ところで、50年ほど後の文安年間(1444~149年)には、もともと大鳥居氏の領地であった筑後国山門郡得飯荘(現・みやま市高田町飯江)の一部が、菊池氏の有力家臣であった阿佐古氏の領地となっていました。この頃には、菊池氏の筑後への影響力と、大鳥居氏や天満宮との関係がさらに深まっていたと推定できると見えます。一見すると太宰府と関係ないように見える室町時代の菊池氏ですが、莊園を通じて、太宰府とつながっていたのです。

太宰府市公文書館 兒玉 良平

【バックナンバーはこちら】 ページID7241